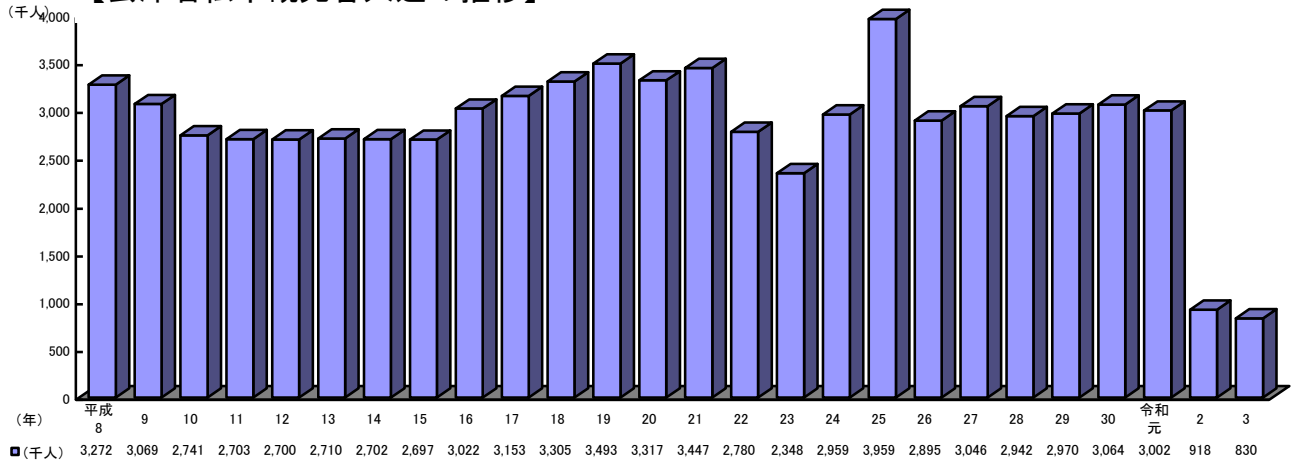


令和3年会津若松市観光客入込みの概況について

【会津若松市観光客入込みの推移】



令和3年も、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出・移動やイベント開催など、さまざまな社会・経済活動が制限され、その結果、本市を訪れた観光客の総数は、830千人と前年から88千人の減少(対前年比90.4%)となりました。

4月からJRの東北デスティネーションキャンペーンや、7月からの東京2020オリンピック・パラリンピックの開催などがあったものの、感染拡大防止対策が講じられ、その効果は限定的なものでありました。

市では、緊急経済対策として、感染防止対策の徹底による安全安心の受入態勢を整備しながら、宿泊者への地場産品プレゼントキャンペーンや教育旅行生向け商品券の発行、市民向け宿泊割引事業など、観光誘客と域内の消費喚起に取り組み、特に教育旅行は、震災後最多の来訪校数になるなど、観光客入込みの下支えになりました。

宿泊者数は、東山・芦ノ牧温泉が対前年比85.1%(令和元年比54.5%)に減少しましたが、市街地の旅館・ホテルはビジネス客を中心に比較的安定した利用があり、対前年比98.1%となりました。市内観光施設は、鶴ヶ城天守閣の入場者が対前年比87.6%(令和元年比47.3%)、他の主要観光施設も平均で対前年比92.2%(令和元年比51.1%)の入込でした。また、外国人観光客については、訪日外国人が見込めない状況にあり、対前年比で8.6%(令和元年比3.2%)と大幅に減少しました。

教育旅行は、栃木県、茨城県などの関東圏から新規来訪校が増加し、全体で1,241校(対前年比107.7%)となり、県外からの来訪校も888校(対前年比112.8%)と震災以降最多となりました。

令和4年は、下半期において、天守閣の長寿命化工事により、天守閣への入場が制限されますが、鶴ヶ城で新たな誘客事業を展開し、年間を通じた観光誘客により、観光客入込みの回復を図ってまいります。